

育苗後半の管理について

本年は、出芽は比較的良好で出芽期は平年並みかやや早いです。気温は平年並みに推移しています。今後は高温多照の予報です。以下の項目に注意して、管理してください。

1) 葉齢に合わせて移植の準備を進めましょう。

移植に適した葉齢は中苗マットでは3.1~3.5葉、成苗ポットでは3.6葉~4.2葉です。

通常は葉数が1枚増えるのに1週間程度かかりますが、高温多照の場合は生育が早くなります。

育苗日数にこだわらず、移植の準備を進めましょう。

2) 過かん水は「苗立枯病」や徒長苗の原因になります。

かん水は晴れた日の午前10時頃までに行い、必ずハウスを開放して、湿気を除いてください。

3.0葉期までのかん水量は、量と回数を控えて根張りを良くします。

1.0葉期以降は葉からの蒸散量が増えるため、早朝にたっぷりかん水します（概ね1,000ml/箱）。

今後1週間は高温の予報です。ハウス内を20℃以下にするために積極的に換気を行ってください。

除草剤について

1) 初期剤について

雑草は1個体で数百~数千の種子を付け、次年度以降に出芽します。

ミズアオイやホタルイの種子の寿命は10年以上になるとの報告もあり、一度、繁茂すると数年は雑草に悩まされることとなります。

発生面積を拡大させないためには、「初期剤+初中期剤」の体系処理が必要です。

また、雑草種子はコンバインのキャタピラに付着して移動するので、雑草の発生が多かったほ場の次に「収穫したほ場」も同様に体系処理が必要です。

防除体系については、農協か普及センターまでご連絡ください。

2) 初中期一発剤について

近年は移植前後から高温多照の年が多く、ヒエによる雑草害が見られます。ヒエの生育は水温から推測できます。近年のヒエ2葉期は下記の表のようになっています。
 (「ホタルイ」の生育はヒエと同等、「ミズアオイ」はやや遅い)

表から、初中期一発剤の散布適期は、概ね「5/15代かき」で6/2～4、「5/20代かき」で6/4～7が目安となります。

面積が大きくなり、初中期一発剤では適期に散布できない場合は、初期剤との体系処理を検討してください。

表 ヒエ2.0葉期と種子の50%が出芽した日

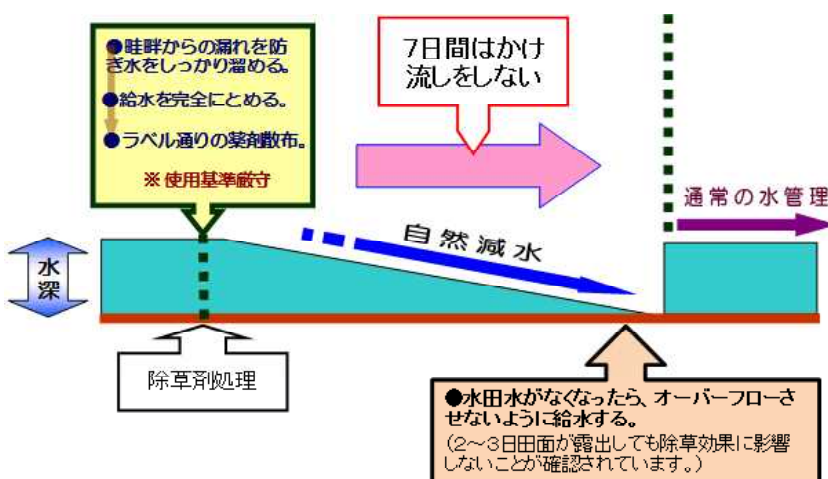
「5/15代かき」の場合														
区分	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日
ヒエが2.0葉期になる日		H28年				H25年	H20年	H21年	H23年					
							H22年	H27年						
							H24年							
							H26年							
ヒエの50%が発生する日	H28年				H25年		H26年	H21年	H20年			H22年		
									H24年				H23年	

「5/20代かき」の場合														
区分	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日
ヒエが2.0葉期になる日									H24年	H25年	H20年	H21年	H27年	
									H28年		H28年	H22年		
ヒエの50%が発生する日						H25年	H26年		H24年			H20年	H23年	H22年
												H21年	H27年	H28年

3) 除草剤散布後の水管理について

除草剤の散布時には、水深を10cmほどにして、1週間は止水にする事が原則ですが、散布後4～5日で水がなくなる場合もあります。

右の図は、平成25年に日本植物調節剤研究協会から報告された技術です。



「除草剤処理後7日間給水しない止水管理」の模式図

2～3日間は田面が露出しても雑草効果に影響がない事が確認されています。

～ 農薬はラベルを確認して、適切に使用しましょう。 ～